

第6学年1組 国語科学習指導案

指導者 石田 里香

1 単元 物語が強く語りかけてきたことを考えながら読もう 「ばらの谷」

2 目標

- 主体的に物語を読んだり、考えたことを自分の言葉で表現したりしようとする。
(関心・意欲・態度)
- 登場人物の心情や場面の様子について叙述を基に読み取り、物語の主題について自分の考えをまとめることができる。
(読む能力)
- 比喩や反復などの表現の工夫について気付くことができる。
(言語についての知識・理解・技能)

3 指導にあたって

(1) 単元について

本単元は、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを受け止め、自分の言葉でまとめる力をつけることをねらいとしている。これは、学習指導要領の第5学年及び第6学年「C読むこと」の指導事項エ「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」に関連する。

教材文の「ばらの谷」は、主人公のばら作りの名人「ドラガン」が「ばらの美しさ」を引き出すことに情熱を傾け続け、最後には「ばら本来の美しさ・本当の美しさ」とは何か、自然の偉大な力に気付かされていく物語である。この教材は、反復表現を多用し、「設定」「展開」「山場」「結末」という典型的な物語の基本構造を持っており、分かりやすい構成となっている。そこからあらすじをまとめ、中心人物の変容をとらえ、それを手がかりに自分に最も強く語りかけてきたこと(主題)を自分の言葉でまとめていくという学習を展開する。この学習は、10月に学習する「海のいのち」の、物語の構成や人物の相互関係や心情を手がかりに主題を読み取る学習へと発展する。

(2) 児童の実態 (在籍**名)

(調査人数**名 *月*日実施)

【教師から見た実態】

- | | | |
|------------------------------------|-----------|-------------|
| | A 十分満足できる | B おおむね満足できる |
| 1 文脈に即して心情を読み取ることができる。 | A **名 | B **名 |
| 2 「ばらの谷」を読んで、主題をとらえることができる。(初発の感想) | A **名 | B **名 |

【意識調査から】

- | | |
|---------------------------------------|-----|
| 1 本を読むときに作者が何を言いたいのか意識して読んでいる。 | **名 |
| 2 自分の考えを書くときに、相手にわかりやすく伝えられるように書いている。 | **名 |

本学級の児童は、読書が好きで、集中して本を読む姿が見られる。本の内容も、簡単な物から読み応えのある本を好む児童が増えてきた。しかし、朝のスピーチでの「本の紹介」では、物語の構成をとらえてあらすじをまとめたり主題をとらえたりすることができず、一部分からの簡単な感想を話すだけの児童が見られた。そこで、物語を「一文でまとめる」学習を随時取り入れ、物語をおおまかにとらえられるようにしてきた。

全体の前で発表することに抵抗のある児童は多いが、ペアや少人数のグループで話し合ったりすることは好んで行う。しかし、ほとんどの児童が相手に分かりやすく伝えよう意識しているが、どのようにしたら分かりやすく伝えられるのか、具体的な手立てを持っていない児童もいる。

したがって、相手に分かりやすく伝えるために、根拠や理由をはっきりさせて話したり書いたりする活動を国語科だけでなく、他教科でも意識して取り入れている。

これらの実態から、6年生最初の本格的な物語文で「どのように読めばいいのか」という学びの観点を明確にして、文学的な文章を読み取る基礎的な力を身に付け、その読みの力を土台として、主題に迫ることが重要だと考える。

(3) 指導観

「読解力向上プログラム」(文科省平成17年)に「学習指導要領国語では、言語の教育としての立場を重視し、特に文学的な文章の詳細な読解に偏りがちであった指導の在り方を改め…」とあり、場面ごとの「詳細な読み」から短時間で全体をとらえる「丸ごとの読み」へと、指導内容の厳選と意識改革が求められている。限られた時間の中で児童一人一人に読みの力を身に付けるために、「どのように読めばいいのか」という学びの観点として「物語文の読みの10の観点」(筑波大学付属小学校 白石載孝先生による)を使い、自ら学ぶ力を育成したい。

また、物語の基本構造「設定」「展開」「山場」「結末」に分け、表に整理して書くことで、文章全体に見られる繰り返しの構造とや「バラの色の変容」「ドラガンの気持ちの変化」「村人とドラガンの関わり」の対比のおもしろさなど表現の工夫についても味わわせたい。一番大事な「結末」では、初めに何が変わったのかを押さえる。そして「同じピンクのばらに対してのドラガンの考えがなぜ変わったのか」作品を後ろから逆に読んでいくことで、原因を究明するという目的

をもって意欲的に教材文を読むことができ、思考が深まると考える。

さらに、ここでは主題をとらえて読むことを学習のねらいとしている。主題とは、作者が作品を通して一番伝えたいことであり、読者が作品から一番強く感じることであるとも言える。児童の実態から、この教材文の主題をとらえるのは難しいと予想される。従って、ばらに対する中心人物の心情の変化を図解して視覚的にとらえやすくし、そこから主題を考えるようにする。中心人物の心情の変化という枠組みの中で、児童一人一人に自由に主題を感じ取らせたい。

学習のまとめとして、読み物教材として教科書に載っている「桃花片」と比べ読みをする。この副教材は中心人物が職人であり「ばらの谷」に似ている。「10の観点」や基本構造を活用して自力で読めるようにしたい。

(4) 研究テーマ「自分の考えを相手にわかりやすく表現できる児童の育成」との関連

ペアや少人数グループなど、自分自身の考えを明確にして、互いの意見を交流し合う場を設定する。このことにより、児童は自分の考えと他人の考えを比較して、共通点や相違点を検討することで、考えが広がったり深まったりすることができる。その際には、「10の観点」を使って一人読みをし、それぞれが自分の考えをもてるようにサポートし、意欲的に話し合いに参加できるようにしたい。

4 指導と評価の計画（8時間扱い）

次	時間	学 習 活 動・内 容	評価の 観 点	評 価 規 準 おおむね満足できる状況（B）
一	1	・物語の大まかな内容をとらえ、初発の感想で物語が自分に最も強く語りかけてきたことを発表し合う。	関	・物語に興味を持ち、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを考えながら読もうとしている。 (ノート・発言)
二	2	・各場面の「出来事」を手がかりにして物語を4つの部分に分け、内容を整理して構成を捉える。	読	・「設定」「展開」「山場」「結末」の4つの部分に分けて物語の構成をとらえている。 (発言・ノート)
	3	・場面ごとの「出来事」や物語の構成をもとに、あらすじをまとめる。	読	・「時」や「場」、「人物」のしたことなどに気を付けてあらすじをまとめている。 (ノート・ワークシート)
三	4	・叙述を手がかりに、ドラガンの考えや心情の変化を読み取る。	読 言	・叙述をもとに、中心となる人物の心情の変化を読み取っている。 (ノート・ワークシート) ・比喩や反復などの表現の工夫について気付き、文章を読んでいる。 (発言・ノート)
	5 本 時	・中心人物の心情の変化に注目して全体を一文で書き、一文から物語が自分に最も強く語りかけてきたことを自分の言葉でまとめる。	読	・物語が自分に最も語りかけてきたことを、自分なりの言葉で書いている。 (ノート・ワークシート)
	6	・「自分に最も強く語りかけてきたこと」や「それを選んだ理由」を交流し合い、自分の考えを深めたり広げたりする。	読	・友達の考えを聞いて、新たに気付いたことや考えが変わった点などを書いている。 (発言・ワークシート)
四	7	・「桃花片」を読んで「10の観点」を使って自力読みをし、「ばらの谷」と似ているところみつける。	読 言	・「10の観点」を活用して、物語の大体をつかもうとしている。 (ノート・話合いの様子) ・比喩や反復などの表現の工夫について気付き、文章を読んでいる。 (発言・ノート)
	8	・「桃花片」の主題をとらえ、「ばらの谷」と比べ読みをする。	読	・「桃花片」の主題を考え、「ばらの谷」と比べて読み、似ているところを話し合っている。 (ワークシート・発言)

5 本時の学習

(1) 目標

物語が自分に最も語りかけてきたことを、中心人物の心情の変容をもとに、自分の言葉でまとめることができる。

(2) 準備・資料

挿絵カード 短冊

(3) 展開

◎は評価

配時	学習活動・内容	教師の支援と評価
5	<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「ばらの谷」を一文で書き、物語が自分に最も強く語りかけてきたこと(主題)を考えよう。</p> </div> <p>○ 一文で書く方法を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～が…中心人物 ・～によって…物語の中で大きく変わったところ(クライマックス) ・～する, ～なる話…物語の結末 	<ul style="list-style-type: none"> ・この物語を一文で書いて中心人物の気持ちの変化をとらえる。それを基にして物語が自分に最も強く語りかけてきたこと(主題)を考えることを知らせ、目的意識を持って学習に取り組めるようにする。 ・一文で書く方法について黒板で図解し、視覚的にとらえやすいようにする。
1 5	<p>2 グループで一文を書く。</p> <p>(1) グループで話し合う。</p> <p><予想される児童の発言></p> <p>○～ドラガンが</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンクのばらを、「うす気味悪い、人にこびる色」と言っていたドラガンが <p>○～によって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青いばらの中に小さなピンクのばらを見つけたことによって ・すべてをやりつくして倒れてしまったあとにピンクのばらを見つけたことによって。 <p>○～する, ～なるお話。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンクのバラを美しいと感じるようになったお話。 ・自分が手をかけていないピンクのばらを素晴らしいと感じるようになったお話。 <p>(2) グループでの考えを短冊に書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの交流活動で進んで自分の考えを話せるよう、前もって「物語文10の観点」を活用して自力読みをし、自分の考えを書いておく。 ・グループの中の個人の考えが視覚的に分かるよう、あらかじめグループ全員の考えをワークシートにまとめておき、話し合いの活性化を図る。 ・グループで話し合う際には、自分の考えの根拠となる文を挙げて、わかりやすく話すように助言する。 ・「～が」は、単に中心人物を書くだけでなく、「～するお話」と対比させて変容が分かるように、どういうドラガンだったのか書くよう助言する。 ・「～によって」は、「10の観点」の⑦の中心人物の心が大きく変化するきっかけとなった出来事を参考にして考えるよう助言する。 ・「～する, ～なるお話」では、ピンクのばらをどう思ったかは本文にははっきり書いていないので、ドラガンの言葉からピンクのばらをそう思っているのか考えるよう助言する。
1 0	<p>3 全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この物語を一文で表すのもっともふさわしいと考えるものを話し合って選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体での交流活動では、意見が言えなくなってしまいう児童がいるので、ペアで話し合い、それを全体の場で発表するという活動を状況に応じて入れる。 ・自分が考えたこととその根拠となった言葉や文、そう考えた理由を明確にしながら発表するとともに、聞き手は自分の考えと比べながら聞くよう助言する。
1 0	<p>4 物語が自分に最も語りかけてきたこと(主題)を書く。</p> <p>○ 中心人物の変化をとらえた一文から個人で考えて書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えが書けない児童には、特に「きっかけ」や「終わり」に注目するよう助言する。 ◎物語が自分に最も語りかけてきたことを、中心人物の変容をもとに、自分なりの言葉で書いている。(ノート)
5	<p>5 本時の学習のまとめをする。</p> <p>○ 本時の振り返りをノートに書く。</p> <p>○ 次時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りとして、自分の考えを分かりやすく話せたか、主題をとらえることができたか等を振り返り、次時に生かせるようにする。 ・次時は、本時で書いた主題を全体で話し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることを伝える。